

民衆の
声
ボイス

VOICEよこはま

公明党横浜市議員団 〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL 671-3023 FAX 681-2060 http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com

「緩和ケア病棟」開設に向け 市民病院を視察



横浜市立市民病院の外来化学療法室を視察する横浜市議員団

横浜救急医療チーム



2月に発足へ!!

横浜救急医療チーム(Yokohama Medical Ambulance Team (YMAT))が発足します。がけ崩れなどの自然災害、列車脱線事故、交通事故などにおいて、複数の重症者や多数の負傷者が発生した場合などに、専門的な研修を受けた医師、看護師によるチームが、災害現場に迅速に出勤し、応急医療を行うものです。消防機関等とも連携し、より多くの救える命を救っていく目的で編成されます。

公明党横浜市議員団としても、早急な整備を要望してまいりましたが、本年2月の発足に向け準備を進めています。

平成19年12月5日、公明党横浜市議員団(仁田昌寿団長)は横浜市立市民病院(渡辺古志郎病院長)を訪問しました。同病院に待望の「緩和ケア病棟」が開設されることにもない、視察調査するとともに病院関係者と意見交換を行いました。平成20年度中に個室が20室整備されることになっています。

緩和ケア病棟とは、がんに伴う痛みなどを和らげ、できる限りその人らしく過ごせるよう最善のケアを提供し、さらに、家族との時間を大切にできるよう設けられる病棟です。

意見交換の中では、従来から終末医療と言われている緩和ケアが、外来や在宅での療養などに柔軟に対応しながら、症状の軽重や時期を問わず患者を受け入れることの必要性などが議論されました。さらに、外来化学療法室、放射線室を視察しました。



市議員
げん なみ 正保

公明党の主張が実り、ストップ温暖化へ!

京都議定書 第一約束期間(2008~2012)突入を契機に
脱温暖化に向け「脱温暖化条例」(仮称)の制定検討へ

具体的な行動を示す「市脱温暖化行動方針」を1月中に策定するほか、庁内に「行動推進本部」を設置します。

また、脱温暖化に向けて、規制的な施策や融資制度・税制等の経済的な誘導策など、様々な施策の導入のため、「脱温暖化条例」(仮称)の制定検討に着手します。

市民一人当たりのCO₂などの温室効果ガスの排出量を2025年までに04年度よりも30%以上減らし、太陽光や風力発電などの再生可能エネルギーの導入を10倍に増やしていく方針を明らかにしました。

横浜市は、従来の取り組みを進めていくだけでは今後予測される深刻な影響を回避することは極めて困難と判断。

京都議定書の発効から2年余。既にポスト京都議定書をめぐる動きが活発化する一方で、地球温暖化は、ますます加速化している状況にあり、全世界で危機感をもって緊急的に取り組むべき課題となつていきます。

太陽光 風力発電を拡大

横浜市は温室効果ガス
30%削減!

泉区に

児童養護施設が
整備されます!

近年、児童虐待等の急増により、養護を必要とする子どもが安心して暮らせ、子どもの健全な成長を支援する児童養護施設が不足し、対策が求められていました。

そのため、横浜市では、中期計画の重点事業として平成22年までに119名の定員増に取り組んでいきます。こうした状況の中、多くの皆様のご協力により約50年ぶりに新たな施設(定員30人)が泉区に整備されることになりました。設置運営主体は社会福祉法人が公募により選定されました。

げん なみ 正保市議は、昨年6月の青少年・市民スポーツ特別委員会において、施設整備における助成制度の課題について質し、岸本こども青少年局長より「適切な単価で助成していきたい」との答弁を引き出し、その後制度の拡充が実現しました。

2008
新春街頭演説



議員生活10周年をむかえ新たな決意で新春街頭演説に立つげん なみ市議 (平成20年1月3日)

どしどしまでも
生活者の
目線で

皆様のお声を市政、国政へと
反映させて頂くとともに
2月から始まる
予算議会についても
初心を忘れず生活者の目線で
しっかりと審議してまいります